



高齢者専用住宅 願寿苑(がじまる)を経営する名嘉廣さん他職員の皆さんが市役所を訪れ、寄附金を贈呈しました。平成23年より継続して寄付を行っており、老人センターや保育所、児童センター等の備品購入に充てられています。名嘉さんは「宜野湾市の福祉施設等の備品購入に役立ててほしい」と話し、市長へ寄付金を手渡しました。



6月に行われたバーモントカップ第27回全日本少年フットサル県大会で優勝を果たした大山サッカークラブの皆さんが、市役所を訪れ、優勝の報告を行いました。キャプテンの幸喜祐心さんは「県大会は粘って勝った。全国では、優勝したい」と意気込みを語りました。8月に東京で開催される全国大会へ出場します。



宜野湾市管工事協同組合(山内聡代表理事)と有限会社ヤマウチ設備(山内聡代表取締役)より、市育英会と市社会福祉協議会へ寄付金の贈呈がありました。平成27年より3年連続の寄付をいただき、市育英会より改ためて心より厚く御礼申し上げます。



6/1の久米島空港へのCH-53ヘリコプターの予防着陸、6/6の伊江島補助飛行場および6/10の奄美空港へのオスプレイの予防着陸を受け、沖縄防衛局長、外務省沖縄担当大使、第三海兵遠征軍司令官、沖縄地域調整官へ抗議・要請を行いました。佐喜眞市長は、このような事案が続く現状は米軍の整備体制など安全管理への取り組みに疑問を持たざるを得ないと強く抗議するとともに、徹底した原因究明と再発防止を求めました。



今年度、市内で初の日本リーグ公式試合を開催する琉球コラソンの皆さん、県ハンドボール協会の皆さん、市ハンドボール協会の皆さんが市役所を訪れました。琉球コラソンが誕生して今年で10年目を迎える節目の年に、公式戦が次のとおり市立体育館で開催されます。10月29日(日)VSトヨタ紡織九州、12月3日(日)VS豊田合成。



5月に行われた第12回県クラブユース(U-15)サッカー選手権大会で優勝したWウイング沖縄FCの仲村千里さん(普天間中3年)と、伊波大道さん(宜野湾中3年)が市役所を訪れ、優勝および全国大会出場の報告を行いました。伊波さんは「攻守でチームに貢献し、勝ち進みたい」と全国大会に向けて意気込みを語りました。



毎年6月23日～29日は、男女共同参画週間です。本週間にあわせて、市役所玄関前において、オープニングセレモニーが行われました。セレモニーでは、市男女共同参画行政地域連絡会による朗読劇が披露され、男女共同参画社会について改めて考える場となりました。女性団体連絡協議会の平良エミ子会長は「男女ともに支え合う社会に向けて、取り組んでいきたい」とあいさつをしました。



5月14日に行われた全国都道府県道場少年剣道大会で準優勝、5月21日に行われた沖縄県杯争奪第39回県幼少錬成大会で優勝を果たした、宜野湾地区スポーツ少年団剣道部の皆さんが市役所を訪れました。二連覇を果たした辻武蔵さん(はごろも小4年)は「来年も優勝を目指す」と語り、準優勝した西遼太郎さん(真志喜中3年)は「全国大会では、稽古でやってきたことを出し切り、優勝を目指す」と抱負を語りました。



返還後の基地跡地利用の推進を図るため、ふるさと応援寄附金の一部および企業等からの寄附金等を積み立てる基金として、平成29年7月1日に普天間未来基金を創設しました。記者会見で佐喜眞市長は「跡地利用へは膨大な費用が必要であることから、自主財源の確保に向け基金を創設した。将来の財政需要に備えるとともに、大きな可能性を秘めた基地跡地というフィールドにおいて活躍することとなる未来を担う人材の育成などに活用したい」と説明しました。また、同記者会見において、第1号の寄附者として(株)國場組(玉城徹也代表取締役社長)より1,000万円の寄附がありました。玉城社長は「世界一危険な基地と言われている普天間基地の跡地は、沖縄はもとより日本の財産になるという市の考え方に賛同する」と話し、目録を市長へ手渡しました。(株)國場組へ市より感謝状が贈られました。



6月26日未明から早朝にかけて基地内で発生したサイレンについて、沖縄防衛局長、普天間航空基地司令官、海兵隊太平洋基地司令官へ抗議・要請を行いました。松川副市長は、早朝の静かであるべき時間帯にサイレン音が鳴り響き、市民生活に多大な影響を及ぼしたことについて強く抗議するとともに、原因の究明と再発防止をこれまで以上に徹底するよう要請しました。



宜野湾ロータリークラブ(柏田吉美会長)は、社会奉仕活動の一貫として、6月23日の慰霊の日を前に、いこいの市民パークにて、オオゴマダラの放蝶式を行いました。本事業へ招待を受けた、第2さつき保育園さくら組の園児22人が会員の皆さんと一緒に平和を祈り、オオゴマダラを大空に放ちました。